

令和4年度 江戸川区立平井小学校 学校関係者評価 最終評価用報告書

学校教育目標	やりぬく平井の子 ・やりぬく心 ・やりぬく体	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	子ども一人ひとりが幸せを実感できる学校 ・自他を大切に、学び続ける子ども ・向上心をもち、互いに切磋琢磨する教師
前年度までの学校経営上の成果と課題	<p>&lt;成果&gt; 新学習指導要領の完全実施に伴い、児童一人一人が「主体的な学び」を進める授業実践を積み重ねることができた。</p> <p>&lt;課題&gt; 子供たちが自ら課題を見出し、解決の課程で仲間と共に試行錯誤しながら自己の学習を調整し粘り強く取り組む学びを全教科・領域で実現を図る。</p>		

教育委員会重点課題	取組項目	評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価		学校関係者評価		年度末に向けた改善策	
					取組	成果	成果と課題	評価		コメント
いきいきと学ぶ学校づくり	確かな学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>「確かな学力向上推進プラン」の実施・改善</li> <li>補習の実施などによる指導の充実と授業力の向上</li> <li>「各教科等の連携教育プログラム」による連携の充実</li> <li>東京ベーンシック・ドリル診断テストによる基礎基本の定着</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科担任制の導入(5・6年生)</li> <li>年間7回校内研究授業</li> <li>外部講師活用の放課後学習(年間150回)</li> <li>家庭学習のICT化推進</li> <li>「eライブラリアドバンス江戸川っ子study week！」の実施(年間3回)</li> <li>「eライブラリアドバンス江戸川っ子study week！」の実施(年間2回実施)</li> <li>東京ベーンシック・ドリル診断テストの実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>主体的、協働的な学びに関わるアンケート調査</li> <li>「自分からすすんで学習に取り組もうとしている」</li> <li>「自分が考えた理由を、きちんと伝えられる」</li> <li>「友達の見解や考えを聞いて、考えを比べようとする」</li> <li>「eライブラリアドバンス江戸川っ子study week！」の実施</li> <li>東京ベーンシック・ドリル診断テスト結果の向上(年間4回実施)</li> <li>ICT機器(タブレット)の活用率向上</li> </ul>	A	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎基本の徹底を図るため、東京ベーンシック・ドリル診断テストや「eライブラリアドバンス江戸川っ子study week！」を実施し、各学年毎週1回ずつ外部講師を活用した放課後学習教室を実施。また、より支援の必要な児童に対して、担任による学習教室も実施。</li> <li>●主体的、協働的な学びに関わるアンケート調査については、2回目を11月末に実施予定。結果については、後日学校HPにて公表する。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>東京ベーンシック・ドリル診断テスト結果を受けて、苦手な単元などを把握し、復習に取り組んできていることが分かった。</li> <li>●ICT機器(タブレット)の活用率は、学年の発達段階で異なってくるが、1人一台端末を活用した学習に取り組もうとしている様子が伝わってきた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●主体的、協働的な学びに関わるアンケート調査の結果、3項目共に肯定的回答が1.2%～3.0%程度増加した。校内研究で育成を目指してきた自己調整能力が身に付いているものと考えられる。</li> <li>●東京ベーンシック・ドリル診断テストや「eライブラリアドバンス江戸川っ子study week！」では、学校行事と重なり、十分な取り組みが実施できなかった。より効果的な実施期間の設定を行う。</li> </ul>
	体力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>始業前の時間や休み時間における全校運動遊びなど主体的な運動の実施による運動意欲の向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ゆうゆうタイム」(朝15分間の運動遊び)の工夫、改善、継続 年間35回実施</li> <li>なわとび、ジョギング週間の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「運動遊び」に関わる児童意識調査「ゆうゆうタイムが楽しい」</li> <li>「休み時間に毎回体を動かしている」</li> <li>数値向上(年間2回実施)</li> </ul>	A	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎週実施される「ゆうゆうタイム」に向けて、教師主導から児童が中心となって遊びの内容を話し合い、工夫・改善・継続を目指して取り組み姿が見られるようになってきている。</li> <li>●「運動遊び」に関わる児童意識調査については、2回目を11月末に実施予定。結果については、後日学校HPにて公表する。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学校HPに掲載されている児童意識調査の結果からも、子供たちの体力向上のための取り組みが、運動をすることが楽しいと感じることに繋がってきていることを感じた。</li> <li>●他学年との交流も視野に取り組みされている様子がとてもよいと感じる。他者意識をもつて一緒に楽しみながら運動をしてみたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「運動遊び」に関わる児童意識調査については、0.7%ではあるが、ゆうゆうタイムが楽しいと肯定的に回答する児童の割合が増加した。</li> <li>●児童が主体的に遊びの内容を工夫・改善・継続をしようとするようになり、遊びの幅が広がっていることでゆうゆうタイムが好きな児童がより増える可能性があると考えられる。また、ゆうゆうタイムの動画や他学年の遊びの工夫を共有することで様々な遊びを知り、遊んでみたいと前向きに活動できるようになる。</li> </ul>
	読書科の更なる充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>読書を通じた探究的な学習の充実(読書科ノートを活用、資料の収集の仕方や記録の取り方の指導、自己の考えをまとも表現する方法の指導、朝読書と1単位時間の授業との関連付け、他教科との関連等)</li> <li>学校図書館の整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>読書科ノートを活用した授業実践と授業公開</li> <li>計画的な保護者による読み聞かせの実施</li> <li>公立図書館の派遣による読書活動の実施</li> <li>読書科、図書館活用に関わる研修会の実施(年2回)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「読書科」に関わる児童意識調査「本を読むことが好き」</li> <li>「調べたことや考えたことを発表することが好き」</li> <li>数値向上(年間2回実施)</li> </ul>	A	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>●読書科に関する教員向けの研修会や相談会を実施し、保護者に読書科ノートを活用した授業実践と授業公開を各学年で実施。</li> <li>●保護者による読み聞かせ再開。</li> <li>●読書科に関する児童意識調査については、2回目を11月末に実施予定。結果については、後日学校HPにて公表する。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>●各学年で、年間1度は学校公開の場で読書科の学習に取り組む様子を公開したことで、読書科がどのように取り組まれているのかが見えてきた。成果物も廊下に掲示するなど、工夫が見られた。</li> <li>●インターネット検索だけでなく、本にもじっくり向き合わせる活動を継続してほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「読書科」に関わる児童意識調査については、「本を読むことが好き」については、-1.8%であった。読書科や国語科など様々な場面で読むことの喜びを伝える必要がある。</li> <li>●コロナ読書が始まったおかげで、本を読む機会が増えた。高学年になると、読む時間が朝読書の時間くらいしか確保できない。継続して読むことができないことから本を読むことが好きではないという可能性もある。そのため、自宅から読みたい本をもつてくることも可能にする。</li> </ul>
特別支援教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>共生社会の実現に向けた教育の推進</li> <li>子どもたちの健全育成に向けた取組の強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「東京2020レガシー」の設定</li> <li>校内委員会の活性化を図ることなどによる指導・支援の充実</li> <li>共生社会を実現する支援シートの充実</li> <li>副審交流、交流及び共同学習の充実</li> <li>エンカレッジルームの活用促進</li> <li>江戸川区子ども権利条約の理解</li> <li>Hyper-QUの実施</li> <li>SSWの派遣</li> <li>チルドレン・サポートチームや生活指導連絡協議会の実施</li> <li>地域・PTAと連携した教育活動の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ボランティアマインド育成のため、クリーンデーなどのボランティア活動の実施</li> <li>支援シートの作成</li> <li>連携型個別支援指導計画の内容改善</li> <li>定期開催の校内特別支援委員会</li> <li>巡回指導教諭、SC、心理士に基づく教室環境整備の全学級実施</li> <li>「エンカレッジルームの目的」に関わる児童意識調査理解度100%(年間2回実施)</li> <li>タブレットを活用して学習実施(5・6年生)</li> <li>全校朝会での講話実施</li> <li>いじめ問題、不登校問題未然防止のため、早期発見、解決、個別対応</li> <li>年間2回のQUテストの実施と結果に対する分析</li> <li>要支援児童への個別対応の充実</li> <li>問題行動を把握するシート作成と活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「東京2020レガシー」に関わる児童意識調査 数値向上(年間2回実施)</li> <li>巡回指導学級児童の満足度調査の結果向上</li> <li>巡回指導教諭、SC、心理士助言に基づく教室環境整備の全学級実施</li> <li>「エンカレッジルームの目的」に関わる児童意識調査理解度100%(年間2回実施)</li> <li>●学級満足度支援群の半減</li> <li>「携帯電話」に関わる児童意識調査「使い方について約束を守っている」について数値向上</li> <li>PTAによる「平井小まつり」の教員参加率向上</li> </ul>	A	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「共生社会を実現する支援シート」連携型個別支援指導計画を作成・共有することで、共通認識での指導が可能になってきている。</li> <li>●東京2020レガシーに関わる児童意識調査、巡回指導学級児童の満足度調査、「エンカレッジルームの目的」に関わる児童意識調査については、2回目を11月末に実施予定。結果については、後日学校HPにて公表する。</li> <li>●Hyper-QUの実施することで、児童の学級での満足度を図ることができ、要支援群の児童に対しての手立てを講じていることが分かった。</li> <li>●携帯電話に関わる児童意識調査については、2回目を11月末に実施予定。結果については、後日学校HPにて公表する。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>●校内での情報共有を行うことで、教職員と児童、保護者のつながりができていることが分かった。</li> <li>●エンカレッジルームを効果的に使用することで、改善されている児童がいることは大変すばらしい。</li> <li>●教職員間での情報共有、SCや巡回心理士の活用を通して、支援が必要な児童を、特別支援教室等につなげることができた。特別支援教室での指導を受けたい児童の満足度調査についても、すべてが肯定的な意見だった。</li> <li>●一部では、家庭の協力を得ることが難しいケースもあるため、専門家チームなどを活用して、児童が必要な支援を受けられるようにする。</li> </ul>	
学校と家庭、地域、関係機関との連携強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校関係者評価の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施・改善</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全校統一した重点項目による評価の実施、分析、公表</li> <li>児童、保護者、学校評議員会からの学校評価を活用、改善</li> <li>教員から行事ごとの反省をとり、次年度に活かす</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中間評価のHPでの公表(10月)</li> <li>最終評価のHPでの公表(3月)</li> </ul>	A	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>●校長の学校経営方針を基に、具体的な取組、数値目標を設定し、達成のために各分掌で取り組む姿が見られた。</li> <li>●各種の意識調査結果を2回目と比較分析を行い、次年度の計画に生かしているようにする。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学校評議員会の場合を設定し、報告を聞くことで、教職員が協力して取り組んでいることがより伝わってきた。</li> <li>●校長の学校経営方針を基に、各部会の分科会の中で、より具体的な目標値の再設定を検討していく。</li> </ul>	
学校における働き方改革	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校運営支援を担う人材の導入(SSSの導入)</li> <li>学校法律相談 スクールロイヤーの活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学級補助員の導入</li> <li>若手OJTの充実</li> <li>定時退勤日の設定、ライフワークバランスの推進</li> <li>職場環境の改善(共有データの整理、身の回りの整頓)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「サービス事故 0件」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定時退勤日の設定、ライフワークバランスの推進</li> <li>職場環境の改善(共有データの整理、身の回りの整頓)</li> <li>●若手OJTの時間確保</li> </ul>	A	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>●定時退勤日の設定、ライフワークバランスの推進、職場環境の改善(共有データの整理、身の回りの整頓)を行うことで、働きやすさを時間している教員が多い。</li> <li>●若手OJTの時間確保</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ライフワークバランスを意識した働き方を行っていることで、サービス事故0件に繋がっているのを感じている。</li> <li>●OJTの時間設定をせずに、気兼ねなく話し合えるような職場環境を作り出していくために、職員間のコミュニケーションを大切にしたい。</li> </ul>	
特色ある教育の展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>実験を通して学ぶ環境学習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>荒川の自然調査</li> <li>校内花壇の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>荒川クリーンエイトとの連携</li> <li>江戸川環境財団との連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動後の振り返りによる肯定的な感想 90%以上</li> </ul>	A	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>●江戸川環境財団との連携、校内花壇の充実が図れた。活動後の振り返りによる肯定的な感想多数。</li> <li>●今年度は、荒川クリーンエイトとの連携が難しく、実施を断念。来年度は実施できるような調整を図っていく。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>●体験を通して、自然環境を学ぶことは、理にかなっている。継続して取り組ませたい。</li> <li>●校外での活動にも参加できるとよいのではないかと考えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●校内花壇を充実させるために、児童が自分から畑やプランターに水やりをする姿が見られた。今後も校内花壇の整備を行い、児童のボランティアマインドを育てていく。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>子供のよさや可能性を引き出す縦割り班での交流</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1、2年生での遠足</li> <li>朝遊びや集会活動充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1、2年生の学校探検、遠足、体力テストなど、定期的な交流</li> <li>「ゆうゆうタイム」の兄弟学年での実施</li> <li>児童集会活動での縦割り班を活用した交流活動の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動後の振り返りによる児童の満足度 90%以上</li> </ul>	A	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>●縦割り班や兄弟学年を活用した異学年での交流活動を再開できた。</li> <li>●継続して実施し、児童が満足した活動となるように計画・実施ができるようにしていく。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>●異学年交流に関して、未だに制限があることは仕方がないが、児童は喜んで交流をしようとしていることが伝わってきた。今後も、交流を通して学ぶ機会を大切にしたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●縦割り班や兄弟学年を意識した活動の回数を増やすことができた。来年度は、より充実した活動となるように、継続した活動が大切である。そのため、縦割り班活動の回数を増やしていく。</li> </ul>